

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第2回 所沢市行政経営推進委員会
開 催 日 時	令和元年11月26日(火) 午後6時から午後7時30分まで
開 催 場 所	市役所低層棟3階 301会議室
出 席 者 の 氏 名	池田 英樹、石川 久、依田 素味、宇佐美 保政、加藤 剛毅、 堀内 清則、渡辺 一俊
欠 席 者 の 氏 名	平岩 敏和
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	
議 題	(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略について (2) 所沢市行政経営指針について (3) その他
会 議 資 料	資料1 令和元年所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗管理表 資料2 地方創生推進交付金における効果検証 資料3 所沢市行政経営指針(案)
担 当 部 課 名	経営企画部長 平田 仁 経営企画課長 市川 勝也 経営企画課主幹 平栗 正之 経営企画課主幹 吉川 泰央 経営企画課主査 松本 しのぶ 経営企画課主任 都築 岳男 経営企画部 経営企画課 電話：04-2998-9027

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p align="center"><u>（1）まち・ひと・しごと創生総合戦略について（資料 1、2）</u></p>
事務局	<p>担当より、まち・ひと・しごと創生総合戦略及び地方創生推進交付金の平成 30 年度実績について説明を行った。</p>
副委員長	<p>資料 2 の 2 ページの KPI②「65 歳健康寿命」について、この産学官連携トコロん健幸プロジェクトが直接関与していたのかもしれないし、他の要因があったかもしれないので、この部分だけで因果関係を断言するのは難しい。例えば全国平均と比べるなどすれば、信憑性が出ると思う。</p>
事務局	<p>KPI は、国の審査・指導を受けながら決定した経緯がある。この事業を実施することで、市民の健康意識への変化など間接的な効果も含めて設定したところである。</p>
委員	<p>資料 2 の 2 ページの KPI①「参加者（国民健康保険加入者）の医療費の抑制額（累計）」について、国民健康保険は、赤字だったのが黒字になった。それとこのプロジェクトは絡んでいるのか。それとも、収納率が上がったことともリンクしているのか。</p>
事務局	<p>直接的な検証は、難しい。この事業の対象者は 1,000 人規模ではあるが、その抑制効果は一部であったと思われる。黒字に転じたのは、県の広域化や収納率の向上が大きな要因となっていると思われる。</p>
委員	<p>資料 1 の P7 の進捗状況は「4 順調に進行している」となっているが、P6 と比較すると、今後の課題の記載がなく順調に進んでいると思うので、「5 順調に進行し、次の段階へ進んでいる。」の評価でもいいのではないか。</p>
事務局	<p>計画通りに進んでいた場合は 4、さらに進んでいた場合には 5 と捉えている。所沢駅西口の事業については課題はないが、計画通りに進んでいるというところで 4 としている。</p>
委員	<p>資料 1 の P1 の KPI に「いいね」の数があるが、SNS を多面的に活用していく考えはあるのか。</p>
事務局	<p>KPI そのものは広報課の内容であるが、例えば、トコロんのツイッターや商業観光課の持っているフェイスブックなど、市としてウェブ上の媒体は活用されている。その他、空撮映像やオリパラの動画を YOU TUBE にアップするなど、媒体の活用としては増えてきて</p>

事務局	いる。
委員	埼玉県で SNS による発信があるか確認したら、フェイスブック、ツイッター、You Tube、インスタグラム、LINE、ブログなど、見せ方が有効なものを規約などを作り若手が中心となってタイムリーに発信している。所沢市でも各課・各プロジェクトで推進してもらいたい。
委員	所沢市まち・ひと・しごと創生総合戦略の P11 のところに概略が載っているが、小手指と狭山ヶ丘の間の調整区域は、利便性があるのにいつまでも手がつかないようだが、どのような状況か。
事務局	所管課では暫定逆線引きエリアを優先して事業を実施しているところである。調整区域については県の考え方もあるので、市単独では解決できないところがある。
	(2) 所沢市行政経営指針について (資料 3)
事務局	担当より、所沢市行政経営指針 (案) について、説明を行った。
委員長	行政経営指針と謳っているが、職員が行政経営をするにあたっての心構えと見受けられるが、そういう理解でいいか。市の経営ではなく、市の経営にあたる上での職員の心構えということでもいいか。
事務局	そのとおりである。
委員	市の構成員 1 人 1 人が、時代の移り変わりの早い今、率先して、この指針をもとに取り組んでいく意思表示ということか。それであれば、「改革改善の気概を持ち」のところを「主体的に取り組む」とか、一番下の「納得できる仕事を進める」のところを「仕事に取り組む」などの表記にしては。 また、30 年後も走り続けるについては、人口消滅可能性都市というところから始まっていると思うが、30 年後、女性が減っていくという方向に変わらないと思うが、女性がどのくらい減っていくというデータを持っているのか。
事務局	男女別ということだけでなく、元となる人口ビジョンでも減少していくとみている。その中で、女性も当然に減っていくと見込んでいる。H62 の人口ビジョンが 34 万人から 27 万 3 千人になるという見込みをたてているので、80%程度に落ち込んでいくとみられる。その先、出生率 2.08 を越えない限り、人口は減っていく。
委員	「所沢のために」というところを「所沢市民のために」と考えると、「市民の目線にたった」という考え方を盛り込んだほうがいいのでは。

委員	<p>一番下の「納得できる仕事」のところを、最終的に「市民が納得できる仕事」を目指す必要があるのでそのような記述にするとより良くなるのでは。</p> <p>また、提言に即してヒト・モノ・カネ・情報の要素を入れたという話があったが、モノについての記述がないように見えるが。</p>
事務局	<p>「納得」の記述については、市民も、という思いはあったが、表現方法を検討する。モノについてはスローガンとして「モノは」という掲げ方が難しかったので、「資源」という言葉に集約している。</p>
委員長	<p>行政経営指針に取り組む対象は、市長、特別職、関係市民、みんなが、ということか。職員行動指針ならわかるが。その部分をきちんと打ち出したほうがいいのではないか。</p>
事務局	<p>行政経営指針なので、「行政は」ということであって、市長や特別職も含む。市民に求めるものではない。</p> <p>職員内部の検討の場でも、行政経営指針なのか行動指針なのかしっかり位置づけをもったほうがいいという意見があり、名称を変更したり内容に経営的要素を加えるなど、変更の可能性はある。</p>
委員	<p>順番を入れ替えては。「職員及び市民が納得できる」を一番先にしては。</p> <p>ところで、「自分事」の関係だが、課はいくつあるか。減らせないのか。部も減らして圧縮したらどうか。市民はたらい回しになる。</p>
事務局	<p>課相当を含めると、92箇所ある。過去には減らす傾向があったが、今は部分的に広げている。例えば、かつての保健福祉部は、福祉部、こども未来部、健康推進部の3つに分かれている。高齢化が進み、注目を浴びる中、細分化している。</p>
副委員長	<p>他市ではワンストップサービスがある。そのようなものがあるといいのでは。</p>
委員長	<p>発想力と持ち味は大事。でも所属を与えると、テリトリーを決めてしまう。組織は絶対組織を守ろうとする。最低限、所沢市としてやっておこうという水準を設定するのは大事。</p>
委員	<p>予算の約20%人件費だが、圧縮されないのではないか。丁寧にやり過ぎてしまっているのでは。市民も市民がやれることはやる、という感覚が必要。言えばやってくれる、という時代になってしまった。</p> <p>市がやることと市民がやることとのバランスが難しい。</p>
委員	<p>前回会議の資料を見ていると、アクションプランもあるようだが、作業としては、まず指針固めてから、ということか。</p>

事務局	その通りである。
委員	<p>「資源を活かしてお金を生み出す」というのがあるが、住民の福祉の向上をはかるのが大前提としてあるのだろうが、プロセスがなく、いきなり「資源を生かして」とくると、会社のように。お金があればいい、という印象を受けた。</p>
事務局	<p>お金を必要なところへ使うため、というのがもちろん前提としてあるので、「活かして、生み出して、福祉に使う」などという表記が正確なのだろうが、職員の印象に残るように、あえて簡潔な表現にしたところではある。</p>
	<p><u>(3) その他</u></p>
事務局	<p>委員に対し、Eメールにて確認依頼した行政改革大綱の進捗状況に関して出された意見内容について報告した。また、次回の会議日程の候補日を確認した。後日、事務局より各委員へEメールにて提示する。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>